

各地域のデータ分析について

1 目的

今後、2025年に目指すべき医療提供体制を実現するための施策を検討するにあたり、データを基に地域の現状を把握する。

2 データ分析の概要

(1) 分析内容

- ア 基本的事項：人口推計、患者推計、病院の配置状況等、2025年の必要病床数の状況、2025年の在宅医療等の充足状況
- イ 入院基本料：7:1及び10:1、回復期リハ等、療養病床の現状
- ウ 疾患別の地域特性：がん、急性心筋梗塞、脳卒中の現状
- エ 救急：救急医療の現状
- オ 在宅医療等：在宅医療等の現状
- カ 医療従事者：医療従事者の現状

(2) 使用するデータ

- ・参考資料8のとおり

3 データの分析結果から議論すること

(1) 地域医療構想の記載内容

- ア 2025年の医療需要と病床数の必要量
- イ 目指すべき医療提供体制を実現するための施策
 - ・医療機能の分化・連携を進めるための施策
病床の機能転換や病床の増床を図るための施策（例：施設整備等の補助、地域連携パスの導入）
 - ・在宅医療等の充実に向けた施策
 - ・医療従事者の確保・養成のための施策

(2) 医療機能の分化・連携に向けた施策検討の関連データ

分析データ	データ確認項目	分析結果から議論する点（イメージ）
病院の配置状況等	病院・有床診療所の配置状況、DPC病院の疾患別の診療実績	・4つの医療機能の中で、どの医療機能の分化・連携等を図るべきか（例：急性期から回復期への転換を行う、回復期を増床する等）
2025年の必要病床数の状況	2025年の必要病床数の充足状況	
7:1及び10:1、回復期リハ等、療養病床の現状	自己完結率、レセプト出現比（SCR）の状況	
がん、急性心筋梗塞、脳卒中、（救急医療）の現状	自己完結率、レセプト出現比（SCR）、DPC病院の診療実績、人口カバー率	・転換等を図る医療機能の内、どの疾患の機能分化・連携等を図るべきか（例：回復期への転換を図る中でも、特に脳卒中の回復期への転換を行う） ・どのような手法で機能分化・連携等を図るべきか

(3) 在宅医療等の充実に向けた施策検討の関連データ

分析データ	データ確認項目	分析結果から議論する点(イメージ)
2025 年の在宅医療等の状況	2025 年の在宅医療等の充足状況	・在宅医療等の充実にあたり、何を重点的に取り組むべきか
在宅医療等の現状	在宅医療関連の医療資源、介護資源の状況、SCR(レセプト出現比)	

(4) 医療従事者の確保・養成に向けた施策検討の関連データ

分析データ	データ確認項目	分析結果から議論する点(イメージ)
医療従事者の現状	医師、看護師等の医療従事者の現状	・(2) (3) のデータや現状を踏まえ、医療従事者の確保・養成にあたり、どのような医療従事者を確保・養成すべきか

4 今後のスケジュール

時期	施策の検討	策定スケジュール
第 3 回 (27.12 ~ 28.1 月)	現状把握	構想区域間調整、各地域の特性、
第 4 回 (2 ~ 3 月)	課題分析	骨子案 (課題分析を反映)
第 5 回 (5 ~ 6 月)	施策の検討	素案 (施策の検討 を反映)
第 6 回 (7 ~ 9 月)	施策の検討	構想案 (施策の検討 を反映)